特集1　薄根太々神楽

地域をつなぐ春の舞

市の重要無形民俗文化財指定の薄根太々神楽は、硯田天満宮の宮守をしていた松本耕三郎が伝承した面神楽です。現在、薄根太々神楽保存会と薄根太々神楽硯田保存会の2団体が活動し、春の例大祭での奉納や芸能祭などでの公演、学校の体験学習を通して、継承保存に努めています。

薄根太々神楽
11座の物語を紹介

※番号は奉納順

1　奉幣御麻之舞（ほうへいおんあさのまい）

演舞に先立ち、祭主が神楽殿を清め神々をお招きする。東西南北をあがめて神々を迎える。

2　国固め之舞

天地が分かれ最初に現れた神、国常立命（くにのとこたちのみこと）による天地創造の舞。太鼓に合わせて矛で天を祝福し、地を踏み固めて国土を安定させる。

3　天の浮橋之舞

男神の伊耶那岐命（いざなぎのみこと）と女神の伊耶那美命（いざなみのみこと）の二神が、日本の国づくりと神創りをする。

4　天の岩戸開き之舞

天照大御神が弟の須佐之男命（すさのおのみこと）の暴挙に怒り、岩屋にこもる。神々が知恵を出し合い、大御神様を岩屋から誘い出す。

5　鍛冶屋之舞

農耕や狩猟に使う農具や剣を作る様子を後世に伝える舞。

6　天狐之舞

キツネが五穀豊穣（ほうじょう）を感謝する舞。道化のひょっとこが餅を投げて、万民とともに喜び合う。

7　弓之舞

弓は武力の象徴。権威や神の力を表す舞。

【参考文献】
金井庫治 『利根沼田への伝承 神職 松本耕三郎と太々神楽』,2008
薄根太々神楽硯田保存会 『面白いほどよくわかる薄根の太々神楽 』,2023